



希望 光 明日

学校だより 令和6年10月3日 校長 大澤由美子

〔 学校教育目標 〕
心豊かな生徒
意欲的に学ぶ生徒
たくましく生きる生徒

「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らず」と言えり

9月に行われた体育祭や新人戦では、キラキラ光る生徒たちの姿をたくさん見ることができました。そして、始業式でも話した「涙」をたくさん目にしました。また、生徒だけでなく先生、さらに生徒の頑張りを見届けてくださった保護者・地域・ご来賓の皆様の中にも「幸せ」「感動」の涙を浮かべてくださった方が何人もいらっしゃいました。本当にありがとうございました。

さて、先日の朝会で『天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず』と言えり。』という話をしました。これは、福沢諭吉の著書的一部分です。7月に新紙幣が発行され、埼玉県ゆかりの渋沢栄一の1万円札に変わりましたが、前の1万円札に描かれていた人物です。

実は、この『天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず』と言えり。』という言葉は、誤って解釈されていることが多いのです。「人の上に人を造らない、人の下に人を造らない」、つまり「人は平等である」と言いたいのだと思ったら、それは間違いです。この言葉には続きがあり、本当に言いたいことはそこに書かれています。原文では少しわかりにくいので、続きを要約すると、「だから、人は皆同じであって、皆が安楽にこの世を渡っていけるはずである。しかし、広くこの人間世界を見渡すと、賢い人も、愚かな人もいる。貧しい人も、富める人もいて、雲泥の差がついている。その差はどこから来るか。それは明らかである。『人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり』とある。つまり、賢い人と愚かな人の差は、学ぶか学ばないかでできるものである。」だから、学びが大切。学びましょう。ということなのです。これは「学問ノススメ」という書物に書かれていることです。

スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、生徒たちには大いに学んでほしいと思います。本校の基本理念は「あこがれと誇り～自らの力で、自らを高めていく学びの場～」です。授業も、部活動も、委員会や係の活動も、清掃も、人間関係も、日常生活のすべてが学びの連続です。たくさん学んで、日々学びを積み重ねて、賢き人になってほしいと思います。

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。されば天より人を生ずるには、万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく、万物の霊たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの物を資り、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめ給うの趣意なり。されども今、広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるはなんぞや。その次第はなはだ明らかなり。『実語教』に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり」とあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとによりてできるものなり。

(福沢諭吉 「学問ノススメ」より)